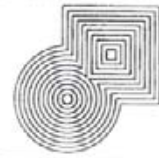


# モノグラフ・高校生'94

vol. 41 高齢化社会と高校生



静岡大学教授 深谷昌志

## ●目次

要約	2
----	---

### I. 高齢化社会の子どもたち

高齢化社会の子どもたち	6
1. 子どもと祖父母	6
2. 祖父母への理解	9
3. 同居、別居の意味	12
4. 親との同居	16

### II. 高齢化社会と高校生

第1章 祖父母との暮らし	20
1. サンプルの概要	20
2. 祖父母との同居	22
3. 祖父母への好き嫌い	25
第2章 祖父母への気持ち	28
1. 知っていること	28
2. 祖父母への希望	33
第3章 高齢者への気持ち	37
1. 高齢者のイメージ	38
2. 高齢者の年齢	42
第4章 高齢化への対応	46
1. 高齢化への対策	46
2. 老人ホームのイメージ	48
3. 高齢者の世話	50
まとめに代えて	55
資料1 調査票見本	57
資料2 学年・性別集計表	73



## 高齢化社会と高校生

### 要 約

#### ① 祖父母の年齢

祖父の4割強、祖母の2割が死亡しているが、祖父母の年齢を知っている者は2～3割にとどまる（p.24 表6）。

#### ② 祖父母への好き嫌い

祖母>祖父、母方>父方の関係が認められるが、母方の祖母は67.9%が孫から「とても」「かなり」好きと思われている（p.26 表8）。

#### ③ 祖父母に対する知識

祖父母についての知識はあまり持たれていない。知っているのは祖父の仕事くらいに限られている（p.30 図3）。

#### ④ 祖父母の生活

「早起きで」「よくお茶を飲み」「お金を大切に」「毎日同じような生活をする」のが高齢者だという（p.32 表13）。

#### ⑤ 高齢者との接触

祖父母以外の高齢者とふれあう機会は「あいさつをする」くらいで、あとはほとんど接触の機会はない（p.39 表20）。

#### ⑥ 高齢者の感じ

「礼儀正しく」「あたたかく」「子ども好き」で「約束を守る」などが、高齢者のイメージだという（p.40 表21）。

#### ⑦ 年寄りになる年齢

「年寄り」という感じがするのは65歳くらいからになる（p.42 表23）。

#### ⑧ 父母の老後

「親が年をとったら同居する」つもりの高校生は35.9%で、「寝たきりになったら」48.2%が同居するつもりだという（p.44 表25）。

#### ⑨ 高齢者についての知識

「老化には個人差があり」「高齢者は幸せに暮らす権利がある」と多くの高校生は考えている（p.46 表27）。

#### ⑩ 老人ホームのイメージ

「自由な」や「明るい」という感じではなく、「寂しい」「画一的な」のが、老人ホームだ（p.48 表29）。

### ⑪ 高齢者の世話

高齢者の世話は疲れる（p. 50 表32）。そして、簡単なことは2週間で覚えられるが、技術的なことを身につけるのには2年くらいかかる（p. 51 表33）。

### ⑫ ボランティアへの希望

「話を聞いたり」「本を読む」ようなことをしたいが、「トイレの世話」などはしたくない（p. 53 表36）。

### 〔まとめ〕

高校生は高齢者に好意的なイメージを抱いており、高齢化についてもかなり正しい情報を手にしていて、そして、自分の親をなんとか世話をしたいと思っていた。そうした意味では、高校生は高齢化をかなり正確につかんでいる。しかし、高校生は高齢者とほとんど接触する機会を持っていない。もう少し高校生が高齢者とふれあう機会が増えれば、高齢者に対する理解も深まる。高校生が高齢者に偏見を持っていないだけに、今のうちにボランティアの形でよいから、高校生が高齢者と接する場をより多く用意する必要があるだろう。

### 〔調査概要〕

時期●1993年10月～11月

方法●学校通しによる質問紙調査

対象●東京・山形・福島・高知の高校1・2年生1,275人

サンプル構成

(人)

	高 1	高 2	計
男 子	164	428	592
女 子	267	416	683
計	431	844	1,275

※本要約の詳細については p. 20～p. 56をご覧ください。





I

高齢化社会の  
子どもたち



# 高齢化社会の 子どもたち

## 1. 子どもと祖父母

この号では「高齢化社会と高校生」を問題にしようとしている。高齢化と高校生というのは取り合わせとしてなじみ薄いもののように思う。しかし、筆者は青少年のあり方を考えるにあたって、少子化や高齢化が及ぼす影響を大きいと考えている。

そこで、ここ数年来、高齢化と子どもの問題に焦点をおいて、いくつかの調査を重ねてきた。

高校生の調査結果をごらんいただく前に、小学生の親子を対象として高齢化社会の問題の調査を行っているので、その結果を紹介することにしよう。実をいうと、小学生版で取り上げた項目を中心として、高校生を対象とした高齢者調査は構成されている。

それでは、子どもたちは高齢化にどういう気持ちを抱いているのか。もちろん、子どもたちと高齢化社会とはあまりにかけはなれているので、ストレートな形で結びつけにくい。そこで、祖父母を手がかりとして、高齢者の問題を考えていくことにしたが、プリテスト

の段階で、子どもたちに話を聞いてみると、祖父母と同居しているかどうかで、子どもたちの高齢者に対する気持ちがかなり異なっているように思われた。

そうした結果をふまえ、調査実施にあたって「お年寄りと住んでいる人」と「お年寄りと住んでいない人」とに分けて、調査票を作成した。もっとも、調査票の構成は2つの調査票ともほとんど一致させて作られており、後半のいくつかの設問だけ、祖父母との同居、別居をふまえた項目をもちこんである。

そこで以下、祖父母との同居か別居かを軸として、子どもたちの高齢者観を探ってみることにしよう。

まず、子どもたちは「年寄り」という言葉に何歳くらいをイメージするのだろうか。図1のように、60歳から65歳を年寄りの始めている子が多い。親たちの世代は70歳を年寄り年齢と思っていた。しかし子どもたちは、若い世代らしく、もう少し早めに高齢化の門を設定している。

なお、同居の子どもたちの45.3%は60歳を高齢化と思っており、65歳になると68.7%と3分の2が年寄りを感じる。しかし、祖父母



と別居している子は、60歳で34.8%、65歳で60.9%のように、年寄り年齢を少し上の方に設定している。祖父母と別居していると、身近に老いを感じる事が少ない。それに対し祖父母と日常的に接していると、日常生活の中で祖父母の老いを感じる機会が早いであろう。

そうしたことが微妙に影響するのであろうか、「祖父母を好きか」についても図2（表1）のような結果が得られている。この図の中には、3つの傾向が認められる。

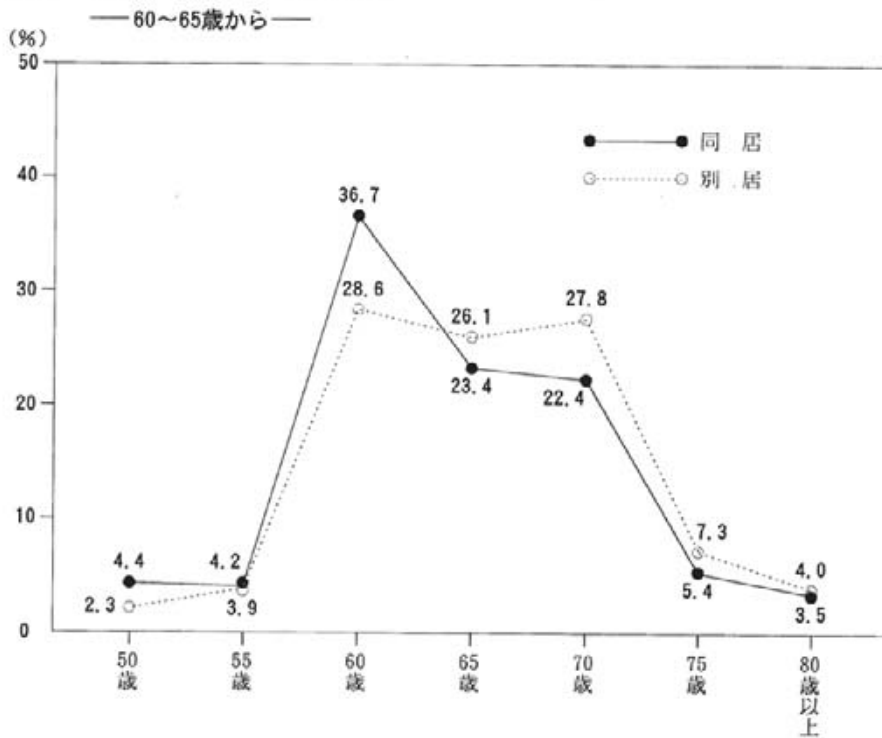
①祖母>祖父

②母方の祖父母>父方の祖父母

③別居>同居

このうち、祖父より祖母の方が好きという気持ちはなんとなく理解できる。また、母の親の方が父の親より好きというの、ありそうに思う。子どもたちに母親好きのあらわれがこういう面に顔をのぞかせている。それに対し、③はわかりにくい。同居しているとなくとも祖父母がうるさい。しかし、別居している祖父母はたまに来て、こづかいをくれるし、プレゼントを持ってきてくれる。そうであるから、別居している祖父母の方が好きなのであろうか。

図1 何歳から年寄り（小学生）



	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳以上
同居	4.4	8.6	45.3	68.7	91.1	96.5	100.0
別居	2.3	6.2	34.8	60.9	88.7	96.0	100.0

(累積の%)

図2 祖父母を好きか（小学生）

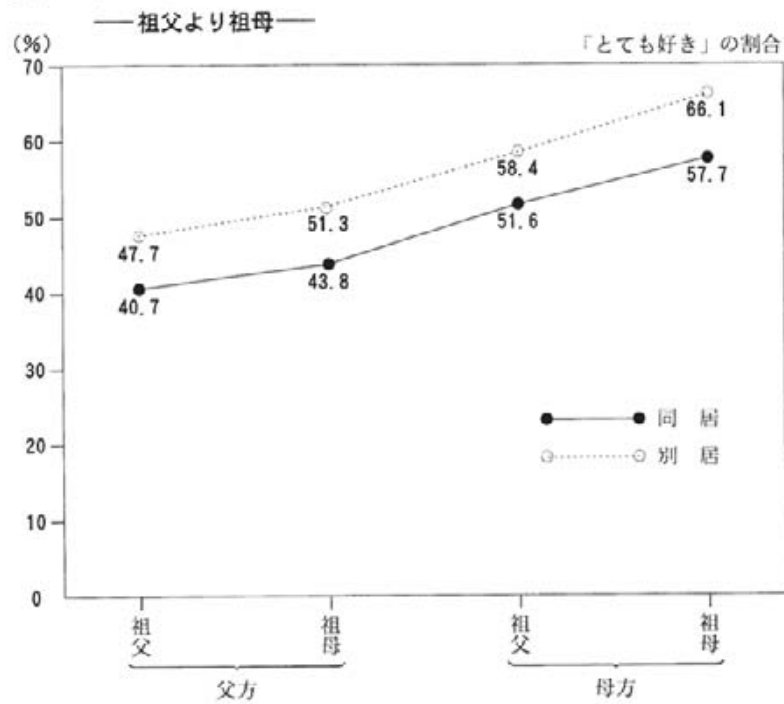


表1 祖父母を好きか（小学生）

— 別居の方が好き —

(%)

			とても好き	わりと好き	どちらでもない	あまり好きではない	嫌い
同居	父方	祖父	40.8	32.8	18.3	5.6	2.5
		祖母	43.8	35.9	13.7	4.3	2.3
	母方	祖父	51.7	29.2	15.4	2.3	1.4
		祖母	57.6	30.2	9.4	2.4	0.4
別居	父方	祖父	47.7	24.2	20.9	4.8	2.4
		祖母	51.3	23.9	17.2	5.1	2.5
	母方	祖父	58.5	24.2	13.8	2.5	1.0
		祖母	66.2	23.4	7.9	1.4	1.1



## 2. 祖父母への理解

こうみてくると、別居している方が距離をおいてある分だけ、孫によい面だけを見せられるように思う。

そこで、祖父母に対する理解が、同居か別居かでどの程度異なるかを示すと、図3～4の通りとなる。

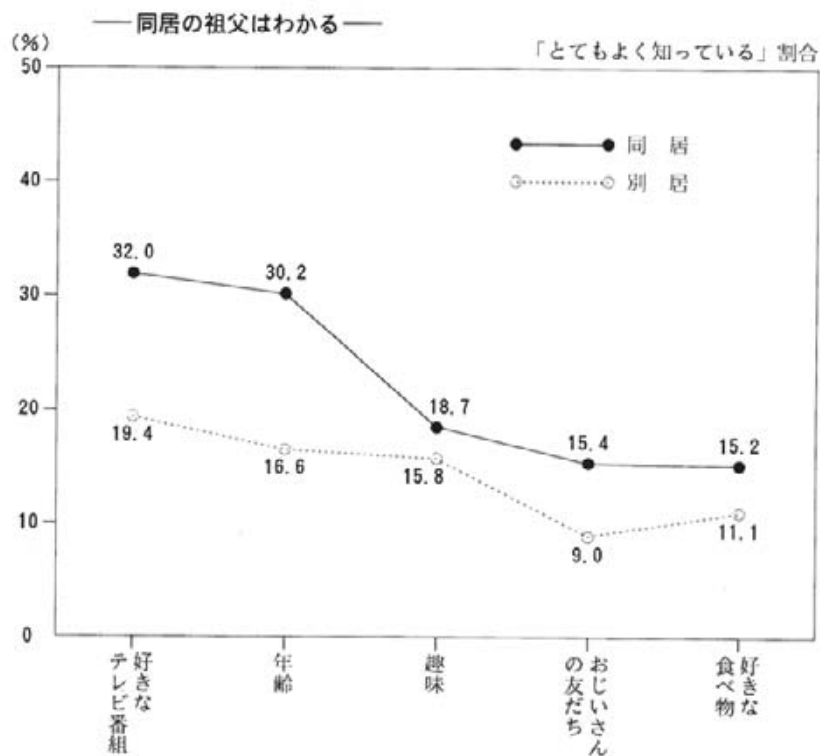
まず、祖母の場合、同居していれば、祖母

の年齢はむろんのこと、祖母の友だちなどを知っている。しかし別居していると、祖母について知っている割合が減少する。

そして同じような傾向は、祖父(図3)についても認められる。一緒に住んでいれば、祖父が好きなテレビ番組はわかるのが当然だが、別居していると、祖父についての具体的なことを知っている割合が減少する。

そこで、もう少し一般化をさせ、祖父母について、「お風呂が好き」「起きるのが早い」

図3 祖父について(小学生)



「よくお茶を飲む」などの行動を29項目示して、「おじいさんやおばあさんにどれくらいあてはまるか」を尋ねてみた。

表2に、「とてもそう」思う割合の高い項目から順に祖父母についての印象を提示したが、祖父母についてあてはまることの5位までは、以下の項目だった。

(サンプル全体)

- 1位 起きるのが早い 56.8%
- 2位 孫にやさしい 52.4%
- 3位 お金を大事にする 38.8%

4位 よくお茶を飲む 34.0%

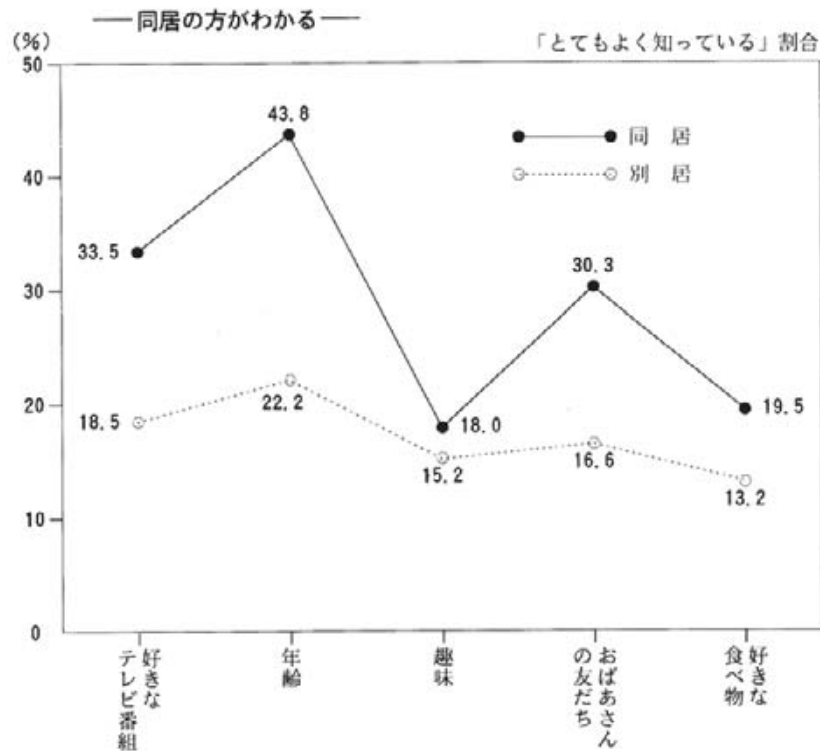
5位 動植物が好き 32.2%

(「とてもそう」の割合)

子どもたちにとっては「早起きをして、よくお茶を飲み、動植物が好きで、お金を大事にし、孫をかわいがる」。もう少し下の順位の項目を含めると、「お風呂が好きで、何でもよく知っているし、こづかいをくれる」人が祖父母という結果である。

子どもたちの目に映る祖父母がそういう存在なのがよくわかる。そこで祖父母への評価

図4 祖母について (小学生)



が、同居か別居かでどの程度異なるのかを調べ、項目ごとに差が大きく生じたものを中心にまとめてみると、同居の祖父母は「テレビを見るのが好きで、お茶をよく飲む」。別居の祖父母は「孫にやさしく、こづかいをくれる」などのイメージが抱かれている。

同居か別居かでこうした開きが認められるので、すでにふれたように、同居している孫は、祖父母の老いを早く感じるのに対し、別居している孫は、祖父母のふだんの生活を知らず、こづかいをもらうだけなので、祖父母

を大好きと思うのであろう。

祖父母と同居していれば、テレビ好きでよくお茶を飲むというような行動の仕方がわかる。それだけに、同居している孫は、祖父母について具体的なイメージを抱いている。

したがって「祖父母にしてほしいこと」についても、別居している祖父母へは「昔の話をしてほしい」という漠然とした願いが多く、同居していると「こごとを言わないで」「もっとおしゃれをして」というような注文が増加する。

表2 祖父母にあてはまること（小学生）  
— 早起きで、お茶が好き —

	同居	別居	同居	別居
① 起きるのが早い	55.0	< 57.6	⑩ 動作がゆっくり	12.8 > 10.2
② 孫にやさしい	39.5	< 60.9	⑪ 男らしく、女らしくと言う	10.3 > 8.7
③ お金を大事にする	39.5	> 37.1	⑫ 食べ物を残すことを嫌う	13.5 > 13.1
④ よくお茶を飲む	36.6	> 32.7	⑬ 昔の話をしたがる	9.4 > 8.4
⑤ 毎日の生活が大変	31.2	> 24.8	⑭ 言葉遣いにうるさい	9.3 > 5.9
⑥ 動植物が好き	30.1	< 33.5	⑮ トイレへよく行く	8.6 > 6.7
⑦ お風呂が好き	28.9	> 25.6	⑯ 近所のことを気にする	8.3 > 6.5
⑧ 何でもよく知っている	27.7	< 32.9	⑰ 背中がまがっている	7.9 < 8.2
⑨ 薬をよく飲む	25.0	> 19.1	⑱ 冗談をすぐ本気にする	7.4 > 5.0
⑩ テレビを見るのが好き	24.0	> 13.4	⑲ 知らない人にも注意する	7.0 < 8.2
⑪ 散歩するのが好き	17.3	< 26.6	⑳ 物忘れがはげしい	5.9 > 4.5
⑫ よくこづかいをくれる	17.2	< 34.4	㉑ 年寄り扱いを嫌う	5.4 > 4.8
⑬ 家にいるのが好き	15.2	> 12.6	㉒ ゲートボールが好き	5.4 < 9.8
⑭ 同じことを何度も言う	14.6	> 8.3	㉓ 新しいものを嫌う	3.9 > 3.4
⑮ 言ったことをまげない	7.6	< 10.0		

「とてもそう」の割合

### 3. 同居、別居の意味

こうみてくると、祖父母の日常生活への接し方が子どもたちの高齢者の気持ちにかなり影響している感じがする。それでは、祖父母と同居している子どもたちは祖父母のどういう面に接しているのか。

表3に、同居している子どもが祖父母とすることを示してみた。「一緒に食事をする」や「おみやげをもらったり、買ったたりする」などが祖父母としていることで、祖父母とともにテレビを見たり、お風呂に入ったりすることは、それほど多くはない。

<テレビを見る>

	祖父	祖母
いつもする	23.4%	30.0%
ときどきする	40.5%	44.0%
あまりしない	21.4%	20.0%
ぜんぜんしない	14.7%	6.0%

テレビを「ときどき一緒に見る」が、「いつも一緒」ではないし、「あまりしない」わけでもない。同居といっても祖父母は、自分の部屋があり、テレビを持っているのだから孫といつもべったりというわけではない。しかし、ともに食事をし、おみやげを買ったりもらったりする仲なのであるから、やはり身内ではある。ほどほどの親しさというのが、祖父母と孫との間柄なのであろう。

それにひきかえて、別居している祖父母は日常生活を知らないの、していることといえば「こづかいをもらう」くらいに限られる(表4)。そして、母と祖父母とが電話をしているのを見ているのが祖父母との関係になる。

このように、祖父母と同居しているかは、子どもたちの祖父母に対する理解に強い影響を与えている。

それでは、こうした開きは、自分の祖父母を離れ、一般的な高齢者に対する気持ちにも影響を及ぼすのであろうか。

表5は、「あなたは近所にいるお年寄りや町で見かけるお年寄りからどんな感じを受けますか」の形で、一般的な年寄りイメージを尋ねた結果である。

「とても」に「わりと」を加えると、年寄りイメージの5位までは、以下の項目が占める。

	同居	別居	全体
1. あたたかい	65.2%	65.2%	65.2%
2. 元気がある	66.5%	62.1%	64.8%
3. 礼儀正しい	60.1%	62.2%	61.4%
4. 子どもが好き	60.2%	60.6%	60.4%
5. もの知り	62.6%	56.7%	58.7%

一般的に「元気があって、あたたく、礼儀正しく、子ども好き」と、子どもたちは「年寄り」によいイメージを抱いている。

子どもたちのまわりにいる祖父母が、まだ元気でがんばっている。そうした祖父母を通して年寄りをみるせいか、子どもたちは年寄りに好意的な気持ちを持っているのがわかる。

そうした中で、「元気がある」「もの知り」「手先が器用」などという気持ちを、同居している子どもは祖父母を通して「年寄り」に感じているのに対し、別居している子どもはそうした感じを抱いていない。

いずれにせよ、祖父母と同居している子どもは年寄りに接しているので、年寄りがもの知りで手先が器用などのよい面を持っているのを感じている。

それと同時に、同居している子どもは年寄りに慣れていたので、別居している子どもより、近くの年寄りと「あいさつをする」や「話をする」などの形で、ふれあう割合が増加している。

表3 同居している子が祖父母としていること（小学生）

— おみやげをもらったり買ったり —

(%)

	祖 父	祖 母
① 一緒に食事をする	66.9	69.7
② 通信簿を見せる	59.7	63.9
③ 旅行のおみやげをもらう	46.0	51.0
④ 旅行のおみやげを買ってくる	44.1	49.6
⑤ 祖父母の誕生日を祝う	39.0	39.3
⑥ 料理をおいしいと言って食べる	35.2	39.3
⑦ 祖父母の方から話しかけてくる	31.0	40.8
⑧ 祖父母に話しかける	30.5	38.7
⑨ 一緒にテレビを見る	23.4	30.0
⑩ 祖父母の好きなおかずが出る	20.4	15.8
⑪ こづかいをもらう	16.0	19.6
⑫ 母と楽しそうに話している	18.4	35.3
⑬ 学校であったことを話す	14.7	21.3
⑭ 子どもの頃の話聞く	14.0	11.4
⑮ 友だちの話をする	12.7	18.0
⑯ 一緒にお風呂に入る	6.0	4.6
⑰ 一緒に寝る	4.5	7.0
⑱ 母とけんかをする	3.8	3.9
⑲ 一緒に掃除をする	2.0	4.2
⑳ 一緒にスポーツをする	1.8	—
祖母が料理をする	—	28.4

表4 別居している子が祖父母としていること（小学生）

— こづかいをもらう —

(%)

	祖 父	祖 母
① こづかいをもらう	33.1	36.6
② 祖父母の家に行きたくなる	27.8	32.2
③ 母と祖父母とが電話をしている	22.8	33.6
④ 学校の成績を知らせる	22.0	24.6
⑤ 誕生日の電話をする	14.1	15.7
⑥ 泊まりに行って一緒に寝る	10.7	13.4
⑦ 誕生日の祝いに行く	10.5	12.8
⑧ 泊まりに行って昔の話を聞く	10.2	10.4
⑨ 食事の時に祖父母の話がでる	8.6	12.3
⑩ 用事がなくても電話をする	8.5	12.8
⑪ 祖父母が泊まりに来る	4.6	7.0



表5 年寄りから受ける感じ（小学生）

— あたたかい人が多い —

(%)

	同居		別居
① 手先が器用	$\frac{27.7 + 34.2}{61.9}$	>	$\frac{27.2 + 27.6}{54.8}$
② もの知り	$\frac{24.9 + 37.7}{62.6}$	>	$\frac{25.6 + 31.1}{56.7}$
③ 礼儀正しい	$\frac{24.6 + 35.5}{60.1}$	=	$\frac{27.2 + 35.0}{62.2}$
④ 元気がある	$\frac{24.0 + 42.5}{66.5}$	>	$\frac{21.5 + 40.6}{62.1}$
⑤ 子どもが好き	$\frac{23.2 + 37.0}{60.2}$	=	$\frac{28.3 + 32.3}{60.6}$
⑥ あたたかい	$\frac{23.0 + 42.2}{65.2}$	=	$\frac{26.7 + 38.5}{65.2}$
⑦ 約束を守る	$\frac{17.8 + 27.8}{45.6}$	=	$\frac{18.7 + 26.5}{45.2}$
⑧ がんこ	$\frac{6.0 + 8.8}{14.8}$	=	$\frac{6.9 + 7.2}{14.1}$
⑨ いばっている	$\frac{3.9 + 7.5}{11.4}$	>	$\frac{2.6 + 5.2}{7.8}$
⑩ こわい	$\frac{3.7 + 7.8}{11.5}$	=	$\frac{4.8 + 4.8}{9.6}$
⑪ おしゃれ	$\frac{3.6 + 12.0}{15.6}$	=	$\frac{4.9 + 9.4}{14.3}$
⑫ わがまま	$\frac{2.8 + 4.1}{6.9}$	=	$\frac{2.6 + 3.4}{6.0}$
⑬ いじわる	$\frac{2.1 + 2.4}{4.5}$	<	$\frac{3.1 + 2.9}{6.0}$

とても + わりと

そう

#### 4. 親との同居

これまで、祖父母と孫という関係の中で、高齢者の問題をとらえてきた。しかし、いずれ、子どもたちも成人し、親たちも高齢化しよう。そういうときに子どもたちは親の老後をどう考えているのか。

表6に示したように、7割の子どもたちは「父母が寝たきりになったら、同居して面倒をみる」と答えている。7割の子がそうするかどうかはともあれ、少なくとも子どもたちはそう思っている。

そうした中で目につくのは、表7の結果であろう。表6のように「父母が寝たきりになったら」でなく、「両親が年をとったら」の形で老後を尋ねてみると、祖父母と同居している子どもの64.5%は父母と同居すると答え、これは別居している子の54.8%と、9.7%の開きを示している。それに対し、別居している子は親と同じように「親の近くに住んで面倒をみる」子どもが、同居している子の15.9%よりも11.7%も多く、27.6%に達している。

祖父母と同居している子は、親の姿を見て自分も同居を考え、別居している子は、親の

表6 父母が寝たきりになったら（小学生）

—一緒に住む—

(%)

	同居	別居	サンプル全体
一緒に住んで面倒をみる	71.2	69.2	70.0
兄弟に面倒をみてもらう	12.4	10.3	11.7
親の近くに住む	9.8	14.1	11.8
親たちだけで暮らしてもらう	1.0	0.7	0.8
老人ホームに入ってもらう	5.6	5.7	5.7

している通りに、別居の方がベターだと思う。そうした意味では、親が自分の親とどう接しているかが、子どもたちの高齢化観に関係してくるよう思う。

なお、子どもたちは祖父母と同居しているよかったですかについて、「とてもそう思う」が50%を上回り、「わりと」を含めると、同居を肯定する子が9割に迫っている。親、特に母親は嫁と姑の問題をかかえ、同居に肯定的な気持ちになりにくいかもしれない。しかし子どもたちにとっては、祖父母との同居は祖父母への理解を増すなど、よい面を含んでいるようにみえる。

それでは、祖父母との同居、別居は、子どもたちの自己像になんらかの影響を与えるのか。調査結果は省略するが、ほとんどの項目で有意な差を認めにくい。しかし1つの傾向として、別居している子に外遊びが好きで、友だちが多く、スポーツが得意という結果が得られている。

こうした結果をふまえて、高校生にとっての高齢化の問題を紹介することにしたい。

〔本稿は「21世紀に於ける児童健全育成の研究」(全国母子健康センター連合会1992年)、「少子化に関する調査報告書'93」(青少年育成国民会議1993年)の深谷担当分を補筆、加筆したものである。〕

表7 両親が年をとったら(小学生)

—同居している子は同居—

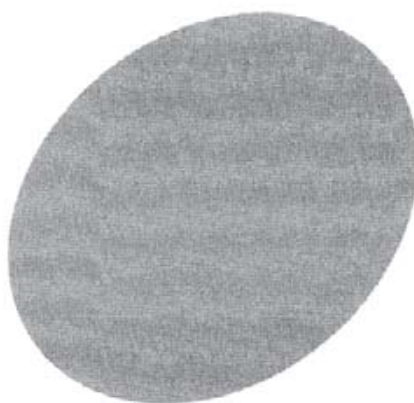
	(%)		
	同居	別居	サンプル全体
同居して面倒をみる	64.5	54.8	58.0
兄弟に同居して面倒をみてもらう	12.2	9.5	10.4
親の近くに住んで面倒をみる	15.9	27.6	23.5
親たちだけで暮らしてもらう	4.2	5.6	5.4
老人ホームに入ってもらおう	3.2	2.5	2.7





## Ⅱ

# 高齢化社会と 高校生



## 第 1 章

# 祖父母との暮らし

## 1. サンプルの概要

高校生に高齢化社会についての質問をするのはそれほどやさしくない。高校生は高齢化ともっとも遠い距離に位置している。それだけに、高齢化の中でも高校生に理解しやすい項目を選んで調査を行うことにした。

調査は受験学年を避けたので、4校の高校1、2年生計1,275名に協力を求めた。いずれの高校とも進学校の性格を持っているので、表1のように「むずかしい4年制大学」の25.4%を含めて、82.7%が4年制大学への進学を望んでいる。そうした意味では、これからのデータは進学校に偏っている部分があるかもしれない。

なお、これから先の人生について、生徒たちは表2のように答えている。「望みの仕事につく」のはむずかしいかもしれないが、「幸せな家庭生活を送る」のはたぶん可能だろうという。なお、高齢化に関して、「晩年の幸せ」について、「絶対」の17.2%に「たぶん」の27.2%を含めて44.4%と、半数近い者が幸せな晩年を予想している。子どもを3人以上ほしいと思っている者は「4人以上」の5.1%を含めて28.6%である(表3)。

生徒たちの自己評価は表4の通りで「服装はきちんとしている」や「約束を守る」などに自信を持っている者が多い。

表1 進路

(%)

むずかしい 4年制大学	まあまあの 4年制大学	短大	専門・専修学校	就職
25.4	57.3	7.3	5.2	4.8



表2 今後の生活

(%)

	絶対可能	たぶん可能	やや可能	やや無理	かなり無理	とても無理
① 望みの会社や仕事につける	6.4	14.9	32.4	29.1	10.9	6.3
② 望みの大学へ入れる	7.8	13.1	31.5	27.8	12.0	7.8
③ 自分らしさを発揮できる	11.6	22.8	35.2	18.5	7.1	4.8
④ 両親の世話をできる	14.2	32.6	34.2	10.5	3.6	4.9
⑤ よい子に恵まれる	16.9	31.7	34.9	8.9	2.1	5.5
⑥ 幸せな晩年を過ごせる	17.2	27.2	31.4	13.7	3.4	7.1
⑦ 幸せな家庭生活を送れる	21.1	33.6	30.2	8.8	1.6	4.7
⑧ 好きな相手と結婚できる	21.7	24.9	24.4	16.6	4.9	7.5

表3 ほしい子どもの数

(%)

0人	1人	2人	3人	4人以上
3.4	6.9	61.1	23.5	5.1

表4 生活についての自己評価

(%)

	いつも そうしている	だいたい そうしている	どちらとも いえない	あまりそう していない	ぜんぜんそう していない
① 時間を能率よく使っている	2.8	8.0	36.2	35.1	17.9
② 遊びでも途中でやめる	4.6	27.2	31.6	26.1	10.5
③ 計画を立てて勉強している	4.9	15.6	28.1	31.1	20.3
④ テレビをだらだらと見ない	10.6	23.7	31.0	23.6	11.1
⑤ 机をきちんとしている	11.2	27.1	22.5	23.3	15.9
⑥ 約束を守る	23.5	52.9	17.4	4.9	1.3
⑦ 服装はきちんとしている	35.1	43.1	15.3	5.2	1.3
⑧ 朝1人で起きる	35.1	27.0	13.7	15.3	8.9

## 2. 祖父母との同居

高齢化社会といっても抽象的に考えられるのでなく、身近に高齢者がいれば理解も深まってこよう。そこで、まず祖父母との同居

の有無を尋ねてみた。

表5に示したように、祖父の52.1%（父方）、42.6%（母方）が死亡しているのに対

表5 祖父母との同居・別居  
— 祖父の4～5割は死亡 —

(%)

	同居	家の近くに 住んでいる	1時間くら いの所に 住んでいる	遠くに 住んでいる	施設に 入っている	死 亡	同居率*
父方の祖父	15.4	11.4	7.6	12.9	0.6	52.1	32.2
父方の祖母	25.8	16.2	11.9	20.2	2.3	23.6	33.8
母方の祖父	4.9	18.0	14.0	19.2	1.3	42.6	8.5
母方の祖母	8.1	24.7	19.2	27.3	1.5	19.2	10.0

\*死亡を除く

し、祖母の死亡率は2割前後にとどまる。そこで、祖父母を全体として「死亡、同居、別居」の3つのカテゴリーに分けてみると、図1のようになる。

表5に戻ると、「死亡を除いた同居率」を表の右端に示した。祖父母の中でも、父方の祖父母は母方より同居率が高い。現在でも祖父母は父方に引き取られるのであろう。

なお、祖父母の年齢について、生徒たちは以下のように答えている。

父方の祖父 74.6歳

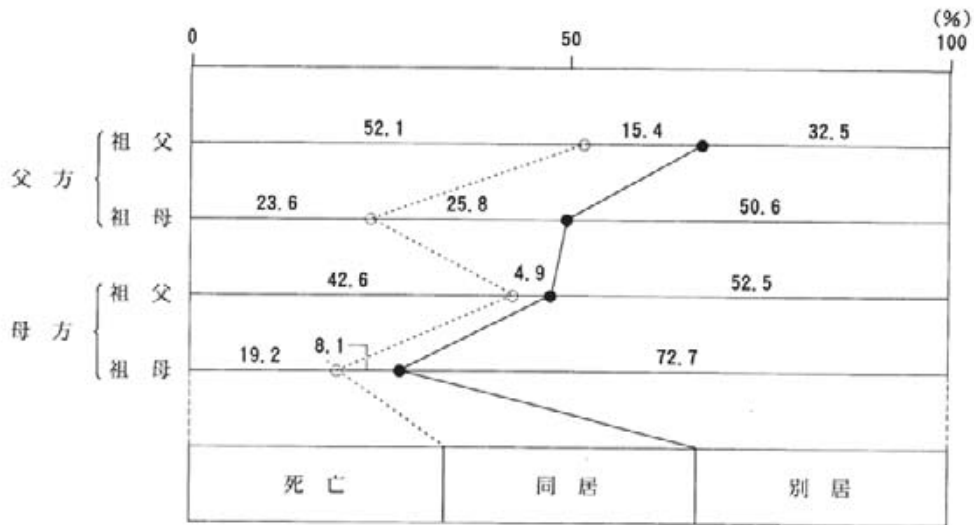
祖母 72.5歳

母方の祖父 72.5歳

祖母 71.0歳

もともと、高校生の孫たちが祖父母の年齢をきちんと覚えているとは思えない。実際に

図1 祖父母との同居



生徒たちに祖父母の年齢を知っているかを尋ねると、表6のように「祖父母が生存している人の中で祖父母の年齢を知っている人」は2～3割にとどまる。

祖父母が生存していても年齢がわからない。といっても、子どもたちは親の年齢もよくわからないかもしれないので、知らないのは祖父母の年齢だけではないのかもしれない。

表6 祖父母の年齢

(%)

	知っている	年齢を知っている割合 *	わからない	死 亡
父方の祖父	15.0	30.4	34.4	50.6
父方の祖母	24.7	32.5	51.4	23.9
母方の祖父	13.6	23.4	44.6	41.8
母方の祖母	22.6	27.9	58.5	18.9

\* 死亡を除く

### 3. 祖父母への好き嫌い

このように高校生になると、祖父の場合、全体の4割以上が亡くなり、1割くらいが同居、4割が別居の感じになる。また祖母については2割が死亡、6割が別居、2割弱が同居になる。

そして、祖父母の健康は表7の右欄が示すように、4割以上が「とても元気」と答えて

いる。まわりの高齢者を見かけると、年齢に比較して元気な割合が増している。60代はむろんのこと、70代の前半でも健康でびんびんとしている人を見かけることが多い。亡くなった方はともあれ、多くの祖父母は健康で、「病気がち」や「寝たきり」の祖父母は5%前後にとどまる。

表7 祖父母の健康状態

—かなり元気—

(%)

	とても 元気	かなり 元気	あまり 元気で ない	病気が ち	寝た きり	施設に 入っている	死 亡	元気な 割合*
父方の祖父	20.8	15.3	6.8	2.7	0.7	1.0	52.7	44.0
父方の祖母	31.9	26.8	10.2	4.3	1.2	1.7	23.9	41.9
母方の祖父	24.3	19.4	6.9	4.2	0.9	1.5	42.8	42.5
母方の祖母	31.8	32.0	9.5	4.7	1.0	1.6	19.4	39.5

\*死亡を除いて「とても元気」の割合

祖父母に対する好き嫌いの割合を表8(図2)に示した。表中の「小計」の欄をグラフ化したのが図2なのだが、この中に、祖母>祖父、母方>父方の関係が認められる。そうすると、母方の祖母が好かれる割合は67.9%、逆に父方の祖母が好かれるのは53.6%にとどまる。しかし全体として、高校生たちの祖父

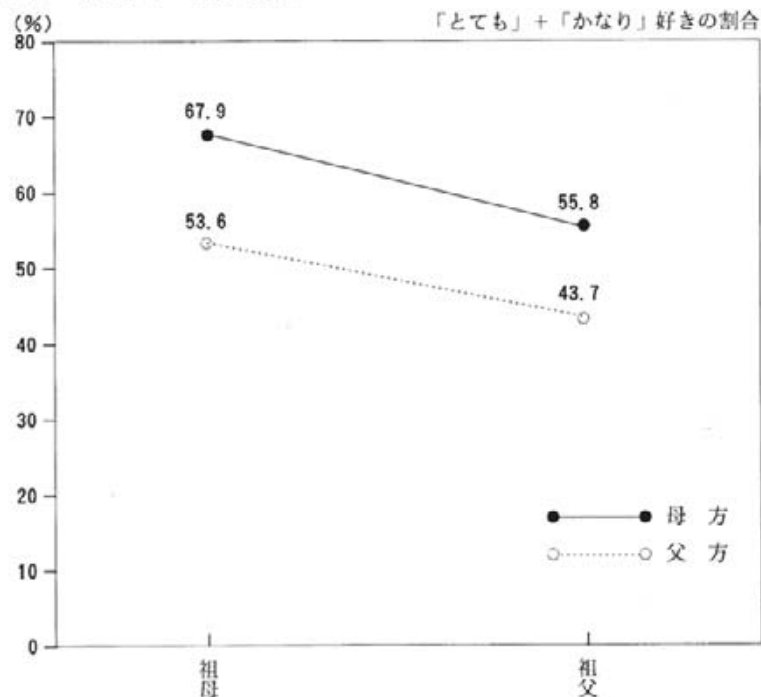
母への感情が予想していたよりはるかによいのが注目される。

なお、「とても」と「かなり」に着目して祖父母についての気持ちを属性ごとに分析してみると、表9のような結果になる。この中に、①学年=高1>高2、②性別・男子=祖父>祖母、女子=祖母>祖父、③同居・別居

表8 祖父母への好き嫌い  
— 祖父母は好き —

	とても好き	かなり好き	小計	やや好き	あまり好きでない	嫌い	わからない
父方の祖父	30.5	13.2	43.7	15.6	4.4	1.6	34.7
父方の祖母	36.1	17.5	53.6	20.0	7.9	2.7	15.8
母方の祖父	39.1	16.7	55.8	14.6	2.8	0.9	25.9
母方の祖母	47.0	20.9	67.9	16.2	2.4	0.9	12.6

図2 祖父母への好き嫌い





=別居>同居の3つの関係が認められる。

①の学年が上がると祖父母を嫌いになる割合が増すのは、学年が上がってそれだけ批判力が増すのか、それとも2学年だけに限られた現象なのかは明らかでない。それに対し、②の男子=祖父、女子=祖母が好きというの

は、同性の方が理解しやすいのであろうか。そして、③の別居・同居は同居していると祖父母の欠点を身近に感じられやすくなる。しかし遠く離れていると、こづかいをくれるいい人に祖父母がなるのであろうか。この③はもう少し後で詳しく考察することにした。

表9 祖父母への好き嫌い × 属性

——同居<別居——

(%)

			好 き		小 計
			ととも	かなり	
母 方 の 祖 母	学 年	高 1	52.1	20.3	72.4 ∨
		高 2	44.6	21.1	65.7
	性	男 子	42.6	22.3	64.9 ∧
		女 子	50.7	19.7	70.4
	同 居	同 居	42.1	20.6	62.7 ∧
		別 居	50.2	20.6	70.8
父 方 の 祖 父	学 年	高 1	35.4	13.1	48.5 ∨
		高 2	28.1	13.3	41.4
	性	男 子	31.4	14.4	45.8 ∨
		女 子	29.8	12.1	41.9
	同 居	同 居	31.3	13.8	45.1 ∨
		別 居	30.8	12.6	43.4

## 第2章

# 祖父母への気持ち

### 1. 知っていること

高校生が祖父母に悪くない気持ちを持っているのはたしかのようだが、祖父母の年齢はあまり知らなかった。そこで、祖父についてのどのくらい知っているのかを尋ねると表10の

通りになる。祖父の「仕事」を知っている者は68.8%に達するが、その他のことは「最終学歴」24.1%、「食べ物の好み」35.0%などのように、「知っている」者が3割前後にと

表10 祖父に関する知識

—あまり知らない—

(%)

	とても知っている	かなり知っている	小計	あまり知らない	ぜんぜん知らない
① 支持政党	9.6	6.2	15.8	19.8	64.4
② 最終学歴	12.3	11.8	24.1	31.4	44.5
③ 食べ物の好み	15.4	19.6	35.0	33.9	31.1
④ 出生地	18.1	18.4	36.5	30.1	33.4
⑤ 趣味	24.3	21.3	45.6	28.4	26.0
⑥ 仕事	38.2	30.6	68.8	18.3	12.9

どまる。

表11は祖母についての知識だが、ここでも「知っている」割合は3～4割前後である。この表10、11をまとめると図3のようなグラフになる。「仕事」を除くと、「食べ物の好

み」や「出生地」などは、祖父より祖母の方を「知っている」割合が高い。しかし、祖母と祖父との開きはそれほど大きくない。祖母の方が祖父より親しいが、それでも祖母を詳しく知っているとはいえないのであろう。

表11 祖母に関する知識

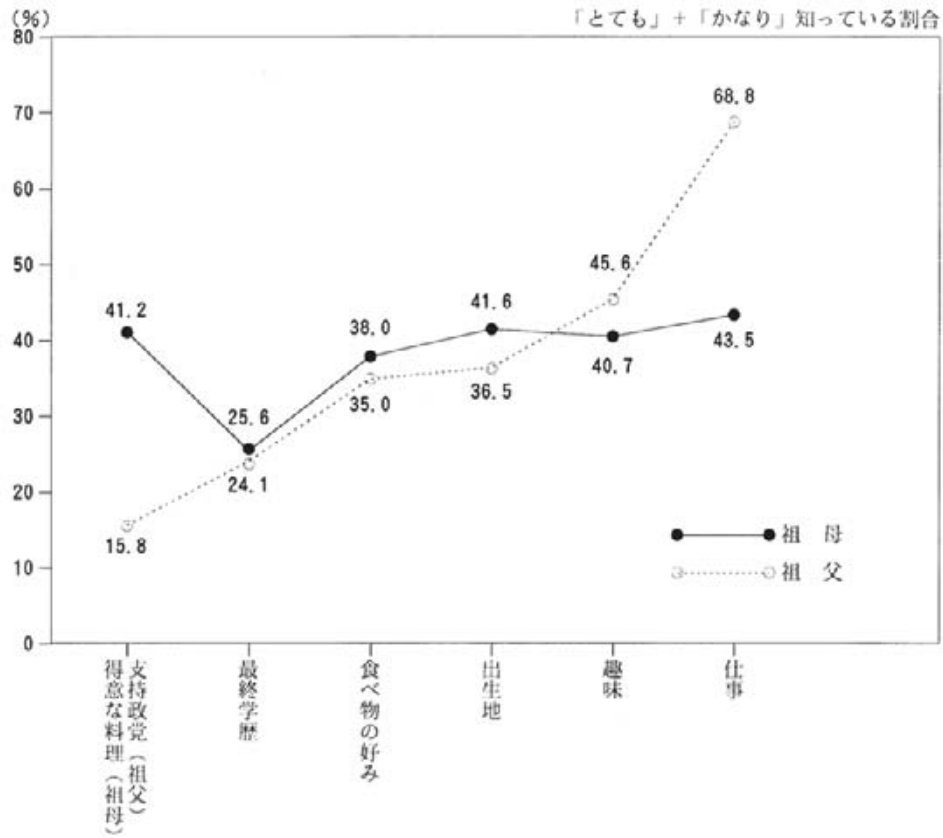
— あまりわからない —

(%)

	とても知っている	かなり知っている	小計	あまり知らない	ぜんぜん知らない
① 最終学歴	12.6	13.0	25.6	30.4	44.0
② 食べ物の好み	15.4	22.6	38.0	34.5	27.5
③ 得意な料理	17.2	24.0	41.2	32.3	26.5
④ 趣味	19.6	21.1	40.7	32.7	26.6
⑤ 出生地	21.9	19.7	41.6	27.6	30.8
⑥ 仕事	23.0	20.5	43.5	26.7	29.8

図3 祖父母に関する知識

—あまり知らない—



なお、祖父母に対する知識を祖父母と同居・別居別に分析してみると、祖父母と同居している子どもの方が別居している子より、祖父、祖母のことを「知っている」割合が多い(表12)。やはり祖父母が身近にいと、祖父母のことを知るようになるのであろう。

なお、祖父母の生活についての評価は表13の通りだが、「そう」の割合の多い項目を拾うと、以下ようになる。

とても+わりと=小計

①朝起きるのが早い49.2%+35.2%=84.4%

②生活が同じ 34.6%+40.9%=75.5%

③お金を大切にす32.7%+37.3%=70.0%

④よくお茶を飲む 30.2%+34.5%=64.7%

祖父母は「早起きで、よくお茶を飲み、同じような生活をしながら、お金を大切にしている」という評価である。さらに「動植物が好き」(59.7%)で、「テレビ好き」(58.5%)、「もの知り」(53.3%)、「機械が苦手」(49.1%)、「風呂好き」(48.9%)、「菓をよく飲む」(48.5%)、「動作がゆっくり」(43.6%)などの項目が並ぶ。

高齢者に対する評価としてかなり納得のできる結果で、高校生にとって祖父母は、自分とは異質なわかりにくい存在なのであろう。

表12 知っている × 同居・別居

(%)

	祖 父		祖 母	
	同 居	別 居	同 居	別 居
① 支持政党(祖父) 得意な料理(祖母)	25.0	> 10.2	46.5	> 33.0
② 最終学歴	30.8	> 20.1	33.0	> 21.2
③ 食べ物の好み	43.1	> 30.2	47.4	> 36.9
④ 出生地	49.4	> 28.5	58.8	> 30.9
⑤ 趣味	49.2	> 43.8	48.5	> 35.7
⑥ 仕事	73.7	> 65.9	53.5	> 37.5

「とても」+「かなり」知っている割合

表13 祖父母の生活

——早起きで、よくお茶を飲む——

(96)

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん ちがう	わからない
① 新しいものを嫌う	2.3	7.0	44.2	18.5	28.0
② 年寄り扱いを嫌う	3.9	8.4	42.8	14.8	30.1
③ 冗談を本気にする	5.2	11.8	35.8	19.7	27.5
④ 言葉遣いにうるさい	5.6	13.0	38.9	26.1	16.4
⑤ ゲートボールが好き	6.4	4.4	14.4	50.5	24.3
⑥ 物忘れがはげしい	6.1	14.1	42.4	21.8	15.6
⑦ ガタカナに弱い	7.1	19.5	27.4	14.6	31.4
⑧ 家にいるのが好き	8.3	25.0	29.8	10.6	26.3
⑨ 昔の話をしたがる	11.0	18.3	34.4	19.8	16.5
⑩ 同じことを何度も言う	12.1	22.9	29.9	22.0	13.1
⑪ 動作がゆっくりしている	15.0	28.6	31.4	15.8	9.2
⑫ 風呂好き	15.6	33.3	22.6	2.5	28.0
⑬ 何でもよく知っている	17.6	35.7	21.9	3.2	21.6
⑭ 発言をまげない	17.7	17.7	31.4	7.4	25.8
⑮ 機械が苦手	19.1	30.0	19.5	9.8	21.6
⑯ 散歩好き	19.7	26.5	31.3	6.7	15.8
⑰ テレビ好き	20.2	38.3	23.4	3.8	14.3
⑱ 菜をよく飲む	25.0	23.5	21.8	11.8	17.9
⑲ 動植物が好き	28.6	31.1	15.9	3.1	21.3
⑳ よくお茶を飲む	30.2	34.5	15.9	3.7	15.7
㉑ お金を大切にする	32.7	37.3	8.0	2.1	19.9
㉒ 生活が同じ	34.6	40.9	9.3	1.9	13.3
㉓ 朝起きるのが早い	49.2	35.2	6.8	1.2	7.6

○は最大値（以下同）



## 2. 祖父母への希望

これまでみてきたように、高校生は祖父母とそれほど親しくふれあってはいないが、それでも祖父母にあたたかい評価を与えていた。それでは、祖父母と同居している高校生は

実際にどれだけ祖父母と接しているのか。表14によると、祖父母と「一緒に食事」をしたり、「おみやげをあげる」ことは多い。しかし「ときどき」を含めて、祖父母に「相談に

表14 祖父母との暮らし（同居）

——一緒に食事——

(%)

	いつも している	ときどき している	あまり しない	ぜんぜん しない
① 相談にのってもらう	1.9	6.4	32.0	59.7
② 進路について話す	3.4	24.9	33.9	37.8
③ 友だちの話をする	5.5	24.9	42.3	27.3
④ 学校の話をする	7.4	36.0	36.2	20.4
⑤ 昔の話を聞く	9.6	41.5	31.6	17.3
⑥ こづかいをもらう	15.8	55.4	20.3	8.5
⑦ 一緒にテレビを見る	21.4	45.2	22.3	11.1
⑧ 誕生日を祝う	36.9	24.1	21.3	17.7
⑨ おみやげをもらう	54.6	28.5	10.9	6.0
⑩ 一緒に食事をする	56.8	26.5	9.4	7.3
⑪ おみやげをあげる	62.5	27.8	7.1	2.6

のってもら」のは8.3%にすぎない。

祖父母と同居していると日常生活の面で祖父母に接しているが、心の通い合いはそれほど多くはないように思える。それでは、祖父

母と別居したらどうなるのか。表15のように別居になると、祖父母との心の通い合いはほとんど認められず、「ときどき」を含めても「暇なときに会う」程度にすぎない。

表15 祖父母とのつきあい（別居）  
—ふれあい少ない—

(%)

	いつも している	ときどき している	あまり しない	ぜんぜん しない
① 相談にのってもら	0.8	4.5	28.1	66.6
② 食事の話題になる	2.9	26.5	38.1	32.5
③ 進路について話す	3.6	23.2	26.8	46.4
④ 電話をする	5.3	18.2	32.7	43.8
⑤ 昔の話を聞く	5.6	20.3	32.3	41.8
⑥ 誕生日を祝う	8.9	15.2	22.6	53.3
⑦ 誕生日に電話をする	10.7	13.0	24.8	51.5
⑧ 暇なときに会う	10.9	39.6	19.0	30.5

なお、同一の項目を使って、祖父母との同居・別居によって祖父母とのつきあいがどれくらい異なるのかを示すと表16となる。当然のことながら、同居している子どもの方が、

別居している子より祖父母とふれあう割合が多い。

「祖父母にしてほしいこと」は表17から明らかかなように、「趣味のこと」くらいはして

表16 祖父母とのつきあい × 同居・別居

(%)

	同 居		別 居		
	いつも している	ときどき している	いつも している	ときどき している	
① 昔の話を聞く	9.6	41.5	5.6	20.3	
	51.1		>	25.9	
② 進路について話す	3.4	24.9	3.6	23.2	
	28.3		>	26.8	
③ 相談にのってもらう	1.9	6.4	0.8	4.5	
	8.3		>	5.3	

表17 祖父母にしてほしいこと

——あまりない——

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
① 家の仕事	1.4	5.4	49.5	43.7
② 働く	1.7	3.2	43.2	51.9
③ 世間に関心	2.2	8.3	53.6	35.9
④ 明るい性格	3.0	10.0	44.6	42.4
⑤ 考えを話して	3.5	12.4	48.0	36.1
⑥ おしゃれ	3.7	11.3	56.3	28.7
⑦ 年寄りづきあい	5.1	13.4	44.7	36.8
⑧ 趣味	17.9	34.1	30.4	17.6

ほしいが、そのほかは「あまり」、あるいは「ぜんぜん」してほしくないという。そして「してほしいこと」の属性分析でも、それほど大きな差を見いだせなかった(表18)。

このようにみてくると、高校生と祖父母と

の間は決して悪くはなく、高校生はかなり好意的に祖父母ををみている。しかし、祖父母との間にはあまりふれあいは多くなく、祖父母と同居している者でも一緒にご飯を食べる程度で、それ以上の接点は見いだしにくい。

表18 祖父母にしてほしいこと × 属性

(%)

			とても そう思う	わりと そう思う	小 計
考 え を 話 し て	学 年	高 1	2.1	9.3	11.4 ^
		高 2	4.4	14.0	18.4
	性	男 子	3.5	12.6	16.1 v
		女 子	3.6	12.3	15.9
	同 居	同 居	2.9	11.7	14.6 ^
		別 居	3.8	12.4	16.2
お し ゃ れ を し て	学 年	高 1	2.4	11.1	13.5 ^
		高 2	4.5	11.4	15.9
	性	男 子	3.0	7.0	10.0 ^
		女 子	4.3	15.0	19.3
	同 居	同 居	4.6	13.9	18.5 v
		別 居	3.1	9.8	12.9



第 3 章

高齢者への気持ち

# 1. 高齢者のイメージ

これまで祖父母を手がかりとして高齢者と高校生との関係を考察してきた。それで、ここからは肉親を離れて、一般的に高齢者の間

題を考えてみたい。

表19に「高齢者とのふれあい」の結果を示した。祖父母などを除くと、誰か高齢の人と

表19 高齢者とのふれあい体験  
——あいさつをする程度——

(%)

	何度もある	ときどきある	1～2回ある	ぜんぜんない
① 一緒に旅行をした	2.8	4.5	11.0	81.7
② 一緒に食事をした	8.7	13.1	23.0	55.2
③ しかられた	8.7	14.6	30.7	46.0
④ 昔の話を聞いた	8.8	17.8	28.7	44.7
⑤ ほめられた	10.0	26.1	31.3	32.6
⑥ 手伝いをした	10.1	25.0	33.2	31.7
⑦ 道を教えた	10.7	26.7	38.2	24.4
⑧ 遊びを教わる	12.4	15.1	25.0	47.5
⑨ 席をゆずった	13.7	28.8	34.3	23.2
⑩ 家に来た	26.2	25.2	19.6	29.0
⑪ 話をした	40.0	33.5	18.1	8.4
⑫ あいさつをした	55.7	30.1	9.7	4.5



「一緒に食事」をとったことが「ぜんぜんない」者が55.2%、これに「1～2回」の23.0%を含めると78.2%と、4分の3以上が高齢者と食事をしていないと答えている。そして高齢者とふれあうのは、「あいさつをする」「話をする」程度に限られている。

そして、「高齢者とのふれあい」を属性別に分析してみると、祖父母と同居している生徒の方が「高齢の人が家に来た」は同居=44.7%、別居=15.0%（「何度もある」割合）のように、高齢者との接点が多く認められる（表20）。

表20 高齢者とのふれあい体験 × 属性

——同居>別居——

	同居		性	
	同居	別居	男子	女子
① 一緒に旅行をした	2.8	> 2.5	4.3	> 1.5
② 一緒に食事をした	9.0	> 8.2	9.8	> 7.7
③ しかられた	6.4	< 9.7	11.8	> 5.9
④ 昔の話を聞いた	8.8	> 8.4	8.9	8.8
⑤ ほめられた	10.3	> 9.4	10.3	> 9.7
⑥ 手伝いをした	10.1	> 9.5	12.5	> 8.0
⑦ 道を教えた	8.3	< 11.4	11.7	> 9.8
⑧ 遊びを教わる	13.8	> 11.0	11.1	< 13.4
⑨ 席をゆずった	12.3	< 13.6	15.3	> 12.3
⑩ 家に来た	44.7	> 15.0	22.2	< 29.6
⑪ 話をした	46.8	> 36.1	36.4	< 43.1
⑫ あいさつをした	66.7	> 49.4	50.8	< 59.8

「何度もある」割合

このように、高校生の高齢者との接点はあまり多くはない。そこで、高校生に高齢者に対するイメージを尋ねてみた。結果は表21に詳しいが、ここでは説明の便宜上、①「とても」と「わりと(そう)」、②「わりと」と「ぜんぜん(ちがう)」の開きに注目しよう。

- ①「そう」の割合の多い項目
1. 礼儀正しい (38.5%)
  2. あたたかい (36.7%)
  3. 子どもが好き (34.7%)
- ②「ちがう」の割合の多い項目
1. こわい (42.0%)
  2. いじわる (39.9%)

### 3. おしゃれ (33.1%)

(上記の数値は図4の注記に詳しい)

したがって高校生は、高齢者は「礼儀正しく、あたたかく、子ども好き」と思い、「こわくて、いじわるで、おしゃれ」という感じは持っていないという。

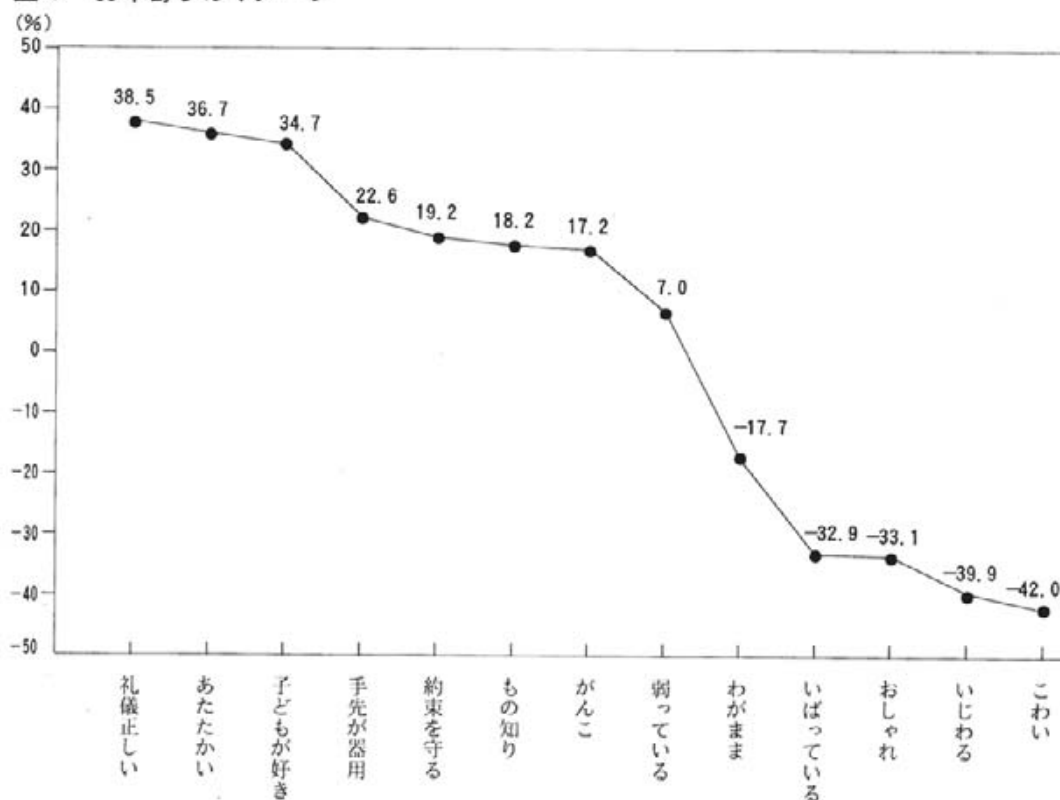
全体として、高校生の高齢者イメージは好意的のように思われるが、これを属性別に分析したのが表22である。学年が上がるにつれて、高齢者に対する評価がクールになる感じがする。また祖父母との同居の方が高齢者にあたたかい評価を与えているが、その差はそれほど大きくはない。

表21 お年寄りのイメージ

(%)

	とても そう	わりと そう	小 計	どちらとも いえない	わりと ちがう	ぜんぜん ちがう	小 計
① おしゃれ	1.1	7.4	8.5	49.9	25.7	15.9	41.6
② こわい	2.3	6.1	8.4	41.2	24.0	26.4	50.4
③ いばっている	3.3	10.0	13.3	40.5	25.8	20.4	46.2
④ いじわる	3.7	6.6	10.3	39.5	22.6	27.6	50.2
⑤ わがまま	4.6	13.4	18.0	46.3	20.3	15.4	35.7
⑥ 弱っている	6.4	25.8	32.2	42.6	16.5	8.7	25.2
⑦ 約束を守る	6.6	22.1	28.7	61.8	6.0	3.5	9.5
⑧ もの知り	6.7	26.6	33.3	51.6	9.4	5.7	15.1
⑨ 手先が器用	8.9	27.9	36.8	49.0	8.9	5.3	14.2
⑩ あたたかい	10.1	36.1	46.2	44.3	5.4	4.1	9.5
⑪ がんこ	10.7	23.2	33.9	49.4	9.5	7.2	16.7
⑫ 子どもが好き	11.0	34.5	45.5	43.7	6.8	4.0	10.8
⑬ 礼儀正しい	11.5	37.9	49.4	39.7	7.3	3.6	10.9

図4 お年寄りのイメージ



(注) 上記の数値は「どちらともいえない」の影響をなくすため、「とても・わりとそう」から「わりと・ぜんぜんちがう」を引いたものである。

表22 お年寄りのイメージ × 属性

(%)

	性		学 年		同 居	
	男 子	女 子	高 1	高 2	同 居	別 居
① 礼儀正しい	51.3	> 47.8	49.0	< 49.6	50.2	> 49.8
② あたたかい	41.7	< 50.2	50.2	> 44.1	49.6	> 44.7
③ 子どもが好き	46.6	> 44.6	50.0	> 43.0	45.3	= 45.7
④ 手先が器用	29.2	< 43.5	37.0	= 36.7	39.1	> 36.0
⑤ 約束を守る	31.2	> 26.4	32.1	> 26.9	29.4	> 28.1

「とても」+「わりと」その割合

## 2. 高齢者の年齢

これまで「高齢者」という言葉を使用してきた。それでは、高校生は何歳くらいを高齢者と考えているのか。表23から明らかなように、高校生は、50代では高齢者とはいわないし、75歳を過ぎれば当然のことながら高齢者と思う。そして平均すると、65歳くらいが高齢者だろうという。

たしかに還暦を超えても元気いっぱいの人を見かける。そう考えると、65歳が高齢の基準という評価はおおむね妥当のように思われる。それでは、高齢になり、いろいろの面で不自由さが増すのは何歳くらいなのであろうか。

表24から明らかなように、「新聞を読む」

表23 老人になる年齢

—65歳くらい—

	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳以上
① お年寄りは？	1.7	2.3 (4.0)	31.3 (35.3)	33.4 (68.7)	26.0 (94.7)	2.9 (97.6)	2.4 (100.0)
② 自分が年寄りに	8.8	6.2 (15.0)	31.8 (46.8)	24.9 (71.7)	18.9 (90.6)	3.0 (93.6)	6.4 (100.0)

表24 不自由になる年齢予測

—85歳を過ぎてから—

	55歳までに	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	85歳以上
① 衣類の着脱	1.6	2.0	2.4	7.6	12.8	25.3	48.3
② 風呂に入る	1.5	1.7	2.4	11.1	17.0	27.8	38.5
③ 家の中の移動	1.5	1.5	2.4	9.0	11.7	25.4	48.5
④ トイレ	1.7	1.3	2.6	9.6	15.0	26.0	43.8
⑤ 外出	1.6	2.0	3.0	12.2	18.8	28.8	33.6
⑥ 食事	1.6	2.2	3.1	12.5	13.0	24.5	43.1
⑦ 人の声を聞く	5.9	9.5	13.6	22.8	15.0	15.1	18.1
⑧ 新聞を読む	22.8	28.5	18.8	14.5	6.9	3.4	5.1

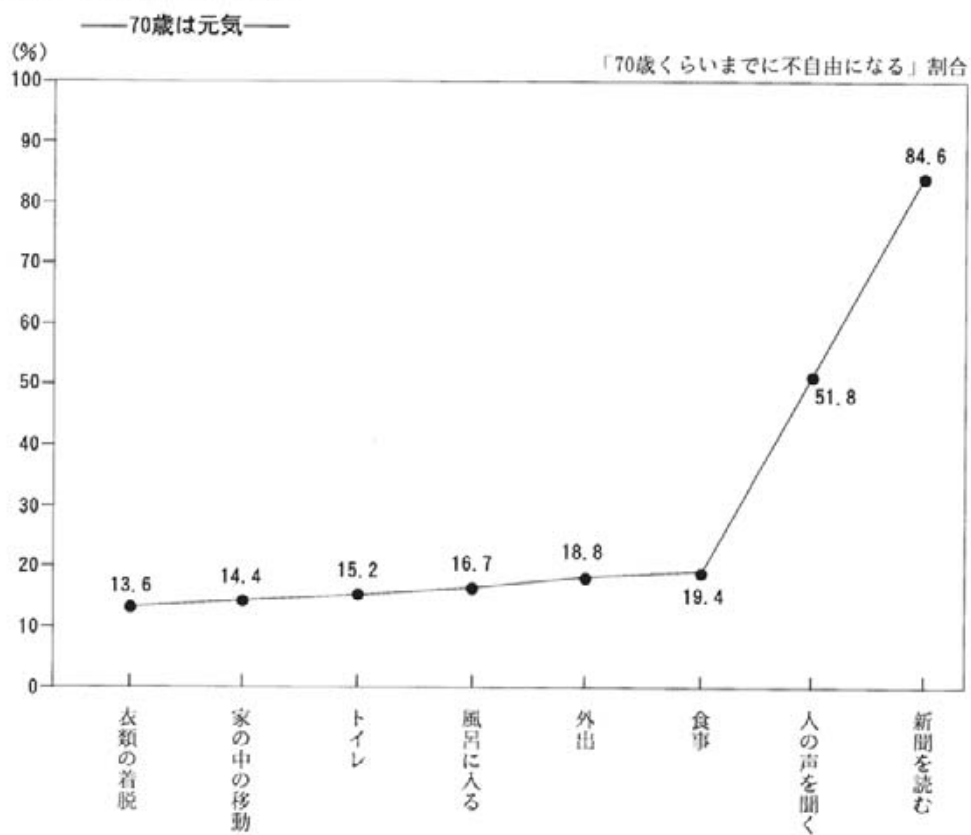
のが不自由になるのは60歳くらいだろう。そして、70歳くらいになると「人の声が聞こえない」などの耳の不自由さが生じる。しかし、その他の「衣類の着脱」や「風呂に入る」などの面で不自由になるのは85歳くらいからだろうという。

そして図5に示したように、70代は目が不

自由になったり、耳が聞こえにくくなったりするが、その他の面では十分に元気にやっていけるだろうと高校生は予測している。

高齢化社会の問題は高齢化をした人がどこで人生を送るかであろう。特に高齢者の家庭での介護に限界があるのは知られているが、その一方、施設での介護にも問題が多いのが

図5 不自由になるのは



わかっているだけに、高齢者への対応の仕方のむずかしさが増す。

表25の「小計」の欄が示すように、さすがに「施設に入ってもらう」は「父母が寝たきりになって」も8.3%にすぎない。しかし、

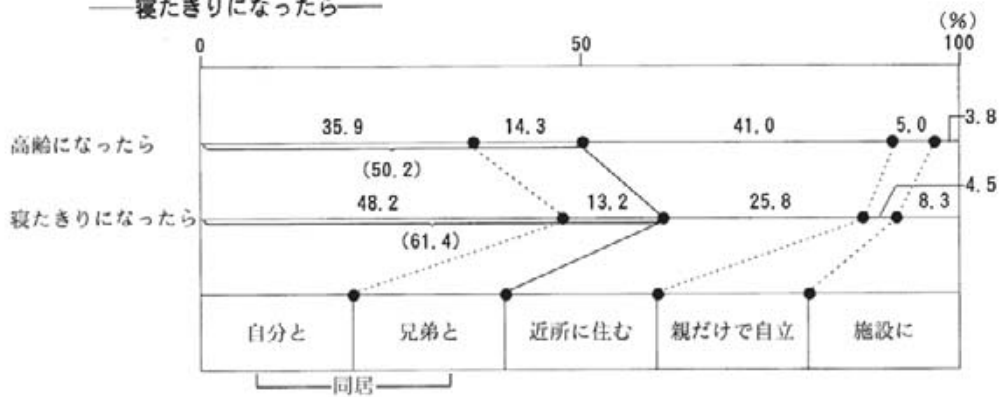
「家で世話をする」と「近所に住んで世話をする」とがかなり接近している。そして、図6のように「寝たきりになったら」自分で面倒をみようと思っている者が多い。

そして、父母の老後と属性との関係は表26

表25 父母の老後  
——「同居したい」が半数——

	自分と同居	兄弟と同居	小計	近所に住む	親だけで自立	施設に
① 高齢になったら	35.9	14.3	50.2	41.0	5.0	3.8
② 寝たきりになったら	48.2	13.2	61.4	25.8	4.5	8.3

図6 親との同居  
——寝たきりになったら——



( ) 内は「自分と」+「兄弟と」同居の割合



に示したように、父母が祖父母と同居していると、その子も親と同居する割合が増す。また、「高齢になったら」では女子より男子の方が同居する割合が多い。しかし、「寝たき

りになる」と女子の方が面倒をみるという生徒が多い。いざとなったら、自分が引き取ってでも親の世話をしたいというのであろう。

表26 父母の老後 × 属性

——いざとなったら女子は世話をする——

(%)

		高齢になったら	寝たきりになったら
学 年	高 1	33.6 ^	44.7 ^
	高 2	37.2	50.1
性	男 子	40.6 v	46.0 ^
	女 子	31.9	50.3
同 居	同 居	43.2 v	51.4 v
	別 居	31.4	46.4

「自分で世話をする」割合

## 第4章

# 高齢化への対応

## 1. 高齢化への対策

高齢化にはわかりにくい部分が多い。特に若い生徒にとって、自分との縁が遠いだけに理解しにくい面が多かろう。

表27に「高齢者に関する知識」についての調査結果を示した。「とても+かなりその通り」と「まったく+あまりそうでない」とに

表27 高齢者に関する知識  
——老化に個人差——

(%)

	とても その通り	かなり その通り	小 計	やや その通り	あまり そうでない	まったく そうでない	小 計
① 無感情になる	1.5	2.9	4.4	6.8	38.2	50.6	88.8
② 知識が小6くらいになる	1.8	4.5	6.3	18.0	47.9	27.8	75.7
③ 新しいことに無関心になる	3.0	9.0	12.0	30.1	41.3	16.6	57.9
④ 必ずぼける	6.0	14.9	20.9	30.8	33.8	14.5	48.3
⑤ 信心深くなる	6.4	16.9	23.3	40.3	27.2	9.2	36.4
⑥ 同居が多い	7.8	14.6	22.4	23.8	44.2	9.6	53.8
⑦ 一人暮らしの死亡率は高い	19.2	30.4	49.6	32.2	14.2	4.0	18.2
⑧ 老化には個人差がある	33.7	33.5	67.2	25.3	5.8	1.7	7.5
⑨ 幸せに暮らす権利がある	76.5	13.7	90.2	6.0	2.5	1.3	3.8

注目してみよう。

①「その通り」の割合

とても+かなり=小計

1. 幸せに暮らす  
権利がある  $76.5\% + 13.7\% = 90.2\%$
2. 老化には個人  
差がある  $33.7\% + 33.5\% = 67.2\%$
3. 一人暮らしの  
死亡率は高い  $19.2\% + 30.4\% = 49.6\%$

②「そうでない」割合

まったく+あまり=小計

1. 無感情になる  $50.6\% + 38.2\% = 88.8\%$
2. 知識は小6に  $27.8\% + 47.9\% = 75.7\%$
3. 新しいことに  
無関心  $16.6\% + 41.3\% = 57.9\%$

高齢者になったからといって「無感情になつたり」「知識が幼くなつたり」「新しいことに無関心」などにならない。高齢者は「幸せに暮らす権利がある」し、「老化には個人差がある」という高齢者観である。特に、高齢化に個人差があると思っているのは高齢化についての理解の深さを示している。

このように考えると、高校生の高齢者観としてはかなり着実な見方のように思われる。

なお、表28に高齢者観の同居・別居別の分析結果を示したが、祖父母と同居している高校生の方が高齢者について正確な見通しを持っているように見える。

表28 高齢者に関する知識 × 同居・別居

(%)

	同居		別居	
	とてもその通り	かなりその通り	とてもその通り	かなりその通り
① 無感情になる	1.6	2.7	1.4	2.8
	4.3		=	4.2
② 知識が小6くらいになる	1.8	5.1	1.9	4.0
	6.9		>	5.9
③ 新しいことに無関心になる	2.7	9.3	3.2	8.7
	12.0		=	11.9
④ 必ずぼける	7.3	17.4	5.4	13.5
	24.7		>	18.9
⑤ 信心深くなる	6.0	18.4	6.4	16.2
	24.4		>	22.6
⑥ 同居が多い	9.3	16.7	6.6	12.9
	26.0		>	19.5
⑦ 一人暮らしの死亡率は高い	17.8	30.3	20.0	29.9
	48.1		<	49.9
⑧ 老化には個人差がある	35.7	33.5	32.2	33.3
	69.2		>	65.5
⑨ 幸せに暮らす権利がある	76.5	14.5	76.5	13.0
	91.0		>	89.5

## 2. 老人ホームのイメージ

すでにふれたように、高齢化の鍵はやはり老後をいかに過ごすかであろう。そして、多くの高校生が父母の老後をなんとか家庭で看護していきたいと思っている。そこで、高校

生に「老人ホームのイメージ」を尋ねてみた。

表29に示したように、老人ホームは「気軽な」「自由な」「明るい」などとは思えない。老人ホームに「寂しい」というイメージを抱

表29 老人ホームのイメージ  
——寂しく自由がない——

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
① 気軽な	4.5	24.4	53.6	17.5
② 貧しい	4.8	15.3	58.6	21.3
③ 自由な	4.9	23.5	56.3	15.3
④ 明るい	6.0	33.1	49.8	11.1
⑤ 親しみやすい	6.4	30.9	51.4	11.3
⑥ 楽しい	6.7	33.7	49.0	10.6
⑦ あたたかい	7.9	33.2	44.6	14.3
⑧ 堅苦しい	7.7	25.2	53.4	13.7
⑨ ごみごみした	8.2	26.5	51.1	14.2
⑩ 画一的な	12.0	39.1	42.3	6.6
⑪ 依存的な	12.6	45.0	37.3	5.1
⑫ 悲しい	17.9	35.0	36.5	10.6
⑬ 寂しい	26.2	40.1	26.0	7.7



く高校生は、「わりと」の40.1%を含めて、66.3%と3分の2に迫っている。

実際の高齢者の施設はこのところ充実しており、かつての老人ホームの感じが薄れつつある。したがって、高校生の抱く老人ホームのイメージはこれから変わっていくと思われる。

そう考えているから、高校生は自分の親を施設に送ることなく、なんとか自分の家で看

護しようと思っているのであろう。

表30に掲げたように、自分の両親はむろんのこと、これから先の高齢者対策として「デイ・ケア」や「ヘルパー」も大事だが、やはり「家族の看護が必要」と考えている。

表31に高齢者対策の属性別の結果を示したが、女子や成績上位層はデイ・ケアを望んでいる。在宅看護の大変さを考えると、デイ・ケアなどの援護体制が必要というのであろう。

表30 高齢者対策  
——自宅——

(%)

	家 族	ヘルパー	デイ・ケア	施 設
① 自分の両親	74.2	8.6	10.1	7.1
② 自分の将来	42.9	12.2	18.9	26.0
③ 今後の日本の政策	54.5	15.7	23.2	6.6

表31 今後の高齢者対策 × 属性  
——女子はデイ・ケア——

(%)

		家 族	ヘルパー	デイ・ケア	施 設
学 年	高 1	60.3 ∇	14.0	20.3	5.4
	高 2	51.3	16.7	24.7	7.3
性	男 子	57.5 ∇	13.5	20.3	8.7
	女 子	51.8	17.6	25.7 ^	4.9
同 居	同 居	61.8 ∇	14.5	18.0	5.7
	別 居	50.1	16.9	26.3 ^	6.7
成 績	上	47.9	15.6	32.3	4.2
	中	54.5	17.6	22.5	5.4
	中の下	56.1	14.2	21.6	8.1

### 3. 高齢者の世話

高校生に高齢者の看護といってもイメージを持ちにくいと思う。それでも、表32によると、高齢者の世話は「入浴の世話」や「おむ

つの交換」など、「とても」「わりと」疲れると思っている。

テレビなどでも高齢者社会の到来が紹介さ

表32 高齢者の世話の疲労度  
— 疲れるだろう —

(%)

	とても 疲れる	わりと 疲れる	小 計	あまり 疲れない	ぜんぜん 疲れない
① 話し相手	12.5	28.5	41.0	41.5	17.5
② 食事の世話	14.2	47.5	61.7	35.2	3.1
③ マッサージ	22.9	45.7	68.6	26.6	4.8
④ 車椅子への移動	34.7	44.5	79.2	18.0	2.8
⑤ おむつの交換	40.3	41.5	81.8	16.7	1.5
⑥ 入浴の手伝い	67.3	26.4	93.7	4.9	1.4



れている。それに接しているうちに、高齢者の問題がある程度まで理解できるようになったのであろうか。もっとも、表33の通りに高齢者の看護は、「マッサージ」(54.0%)、「食事の世話」(59.5%)など、2週間もあれば慣れると思う。それに対し、「高齢者介護の技術を身につける」のに2年くらいはかかるとも答えている。そうした意味で高校生は、

高齢者の世話を①身内が行う簡単な、しかし量の多いことと、②スペシャリストの行う技術を必要とすることとに分けているのであろう。

すでにふれたように、高校生の祖父母はかなり元気であった。しかし、祖父の4割近くが亡くなっているので、高齢化のことも少しわかってきたような印象を受ける。

表33 習熟期間

— 半月もあれば —

	3日	1週間	半月	小計	1か月	3か月	小計	半年	1年	小計	2年	3年以上	小計
① 技術を身につける	2.0	2.1	3.0	7.1	8.0	8.2	16.2	12.0	21.9	33.9	10.7	32.1	42.8
② 心理を理解する	3.3	5.1	6.1	14.5	13.8	12.9	26.7	14.6	17.1	31.7	5.0	22.1	27.1
③ 入浴の手伝い	5.5	13.0	18.4	36.9	26.0	15.0	41.0	9.9	6.0	15.9	1.0	5.2	6.2
④ おむつの交換	9.8	20.5	21.1	51.4	22.8	8.6	31.4	7.1	4.4	11.5	0.5	5.2	5.7
⑤ マッサージ	18.4	17.2	18.4	54.0	17.4	10.1	27.5	7.3	4.4	11.7	1.3	5.5	6.8
⑥ 車椅子への移動	14.4	23.9	20.8	59.1	20.7	8.5	29.2	4.4	3.0	7.4	0.4	3.9	4.3
⑦ 食事の世話	15.9	25.1	18.5	59.5	20.1	6.7	26.8	5.6	3.5	9.1	0.3	4.3	4.6
⑧ 話し相手	35.6	19.2	12.5	67.3	12.3	6.0	18.3	5.4	2.9	8.3	1.0	5.1	6.1

なお、高校生たちの高齢者との接点はあまり多くない。「入院の見舞い」を除くと、「寝たきりの世話」や「施設見学」などを「1度もない」割合が多い(表34)。そして表35によると、祖父母と同居している者は高齢者を看護している割合が多い。

中学校から高校へ行き、そして、毎日を過

ごしているのが、高齢者と接する機会がないのも当然であろう。

このところ、ボランティアに関心が集まっていると聞く。表36によれば、ボランティアについての希望として、「話を聞く」や「本を読む」などはしてもよい。しかし「トイレの世話」や「入浴の援助」などはする気にな

表34 高齢者との体験

—ふれあい少ない—

(%)

	1度もない	1度だけある	2~3回ある	5~6回ある	数えられないくらいある
① 入院の見舞い	17.3	12.3	29.9	21.2	19.3
② 寝たきりの年寄りの姿を見る	37.7	13.3	26.1	7.6	15.3
③ 死亡を見る	44.2	28.0	22.0	4.0	1.8
④ 施設見学	73.1	12.7	9.2	2.6	2.4
⑤ 寝たきりの年寄りの世話	82.4	6.2	5.4	1.9	4.1
⑥ ボランティア	89.2	5.4	3.8	0.6	1.0

表35 高齢者との体験 × 属性

(%)

	学 年		性		同 居	
	高 1	高 2	男 子	女 子	同 居	別 居
① 入院の見舞い	87.4	> 80.2	80.7	< 84.4	85.7	> 81.0
② 寝たきりの年寄りの姿を見る	66.5	> 60.2	59.3	< 65.1	66.2	> 60.0
③ 死亡を見る	50.3	< 58.8	56.2	> 55.6	59.0	> 53.4
④ 施設見学	28.3	> 26.2	23.3	< 30.0	29.4	> 25.5
⑤ 寝たきりの年寄りの世話	16.3	< 18.3	17.0	< 18.1	20.3	> 15.2
⑥ ボランティア	11.3	> 10.5	8.7	< 12.5	13.4	> 9.2

「1度はある」割合

れないという。本来、ボランティアは人の嫌がることをする面があると思うが、高校生はそういう3Kに近いボランティアはしたくないという。なお、表37によれば、ボランティアを希望するのは男子より女子に多い。

最後に、高校生の自己評価を表38に示した。「高齢者に親切」と思っている生徒が35.9%

と3分の1を超える。しかし、高齢者が身近にいないからそう思えるので、祖父母が寝たきりになったとき、そう思えるのであろうか。また表39に、参考までに高齢者に親切かどうかの属性別の結果を示した。

表36 高齢者ボランティア希望  
— 話を聞くくらいなら —

(%)

	ぜひ やってみたい	できたら やってみたい	小 計	やや やってみたい	あまり やりたくない	まったく やりたくない	小 計
① トイレの世話	2.7	5.9	8.6	15.5	49.2	26.7	75.9
② 入浴の援助	3.1	7.9	11.0	21.2	46.3	21.5	67.8
③ 食事の介助	6.0	15.3	21.3	28.6	34.1	16.0	50.1
④ 老人ホームを訪問	12.5	23.4	35.9	28.3	25.1	10.7	35.8
⑤ 歩行の援助	13.7	27.7	41.4	28.8	19.8	10.0	29.8
⑥ 朗読	17.1	28.3	45.4	26.1	18.3	10.2	28.5
⑦ 話を聞く	18.6	29.5	48.1	27.6	15.7	8.6	24.3

表37 高齢者ボランティア希望 × 属性

(%)

	学 年		性		同 居	
	高 1	高 2	男 子	女 子	同 居	別 居
① トイレの世話	9.7	> 7.9	6.5	< 10.3	6.9	< 9.3
② 入浴の援助	13.5	> 9.8	7.1	< 14.4	9.1	< 12.2
③ 食事の介助	24.2	> 19.8	10.8	< 30.4	21.9	> 21.0
④ 老人ホームを訪問	39.2	> 34.1	21.9	< 47.8	34.9	< 36.9
⑤ 歩行の援助	45.8	> 39.0	27.5	< 53.3	39.4	< 42.5
⑥ 朗読	49.6	> 43.0	28.4	< 60.1	43.3	< 46.6
⑦ 話を聞く	50.6	> 46.6	34.1	< 60.0	44.8	< 50.3

「ぜひ」+「できたら」やってみたい割合

表38 自己評価

— 親切に自信 —

(%)

	とても そう	かなり そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
① 勉強が得意	4.2	7.7	53.5	34.6
② 高齢者に親切	6.4	29.5	51.4	12.7
③ ユーモアがある	10.7	30.7	49.2	9.4
④ 困っている人に親切	13.7	39.4	37.3	9.6
⑤ 涙もろい	18.9	29.4	35.7	16.0
⑥ 個性がはっきり	19.7	28.0	42.3	10.0

表39 高齢者に親切 × 属性

(%)

		とても そう	かなり そう	小 計	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
学 年	高 1	5.9	27.3	33.2	53.8	13.0
	高 2	6.7	30.5	37.2	50.1	12.7
性	男 子	8.4	29.9	38.3	45.1	16.6
	女 子	4.8	29.1	33.9	56.7	9.4
同 居	同 居	7.0	29.4	36.4	51.7	11.9
	別 居	6.1	29.6	35.7	51.1	13.2



# まとめに代えて

## 1. 2つの道

高齢化社会への対応はさまざまな観点から取り組まれることになるだろう。しかし、いずれにせよ、その中心をなすのは、若い世代が高年の人たちの世話をどう考えていくのが問題となる。

高負担を覚悟して、社会福祉を充実し、今は公的な施設の充実を高齢化への対応策とみなすのか、それとも、可能な限り、家庭内での暮らしを大事にし、それを補う形に公的な施設を考えるのか。もちろん、現実には両者の

中間とならざるをえない。しかしものの考え方として、どちらの方が高齢者の幸せにつながるのか。

欧米でも、このところ、日常の生活を可能な限り持続させ、自立を促す。そうした中に公的な補助を加える形で、高齢化対策が進んでいる。少なくとも、公的な施設の充実だけでは高齢化社会を乗り切れないのはたしかであろう。

## 2. 高齢者とのふれあい

日本の場合、親たちの世代が、少なくとも自分の親の面倒はみるつもりと答えているように、高齢化社会への対応は家庭に頼りすぎる傾向がみられる。それだけに、当分の間、公的な対策の充実が何よりも必要と思われる。

しかし、それにしても、若い世代が高齢化をどう考えるかが大事なことは間違いない。そして、今回の調査によれば、祖父母と同居

している子どもは、祖父母の日常生活を知っているだけに、嫌な側面はむしろ、よい面に接している。一方、祖父母と別居している子どもは、祖父母がこづかいをくれたり、おみやげを買ってくれるだけなので、祖父母に具体的なイメージさえ抱きにくい。そして、そうした距離の開きが、祖父母と同居している子どもが、父母と同居して老後をみるとい

う反応となったのであろう。そうした傾向は小学生はむろんのこと、高校生についても認められた。

それだけに同居という形はむろんのこと、

高齢者が身近にいない場合でもなんらかの形で高齢者とふれあう機会をふやす必要がある。

### 3. 高齢者問題への教育

もちろん、拡大家族化はさまざまな問題をはらんでいるし、高齢化社会を乗り切る唯一の道が孫と祖父母とが同居するという拡大家族化というのはなんとも情けない感じがする。しかし、人間的なコンタクトを持つことが、子どもたち的高齢者への態度を決めるための第一歩なのはたしかなように思われる。そうした意味では、高齢者と子どもたちの交流を促し、子どもたちに高齢者に対する偏見をなくして、高齢者との接し方をおぼえさせる。そうした教育活動が必要となってくるように考えられる。

欧米の事例が示唆しているように、公的な施設の充実により、高齢者社会へ対応することは、財政的に多くの困難を抱えているだけでなく、高齢者自身の心身との安定にも欠け

るといわれる。公的な施設の助けを借りねばならない場合も生じてこようが、可能な限り高齢者もふつうの市民として、家庭を基盤とした地域の中で生活していくのが望ましい。そのためには、若い世代の人たちが高齢化とは何かを理解し、精神的に高齢者を支える姿勢が必要となる。そうした意味では、高齢化の問題を解決するための遠回りだが、しかし着実な方策は、高齢化問題についての啓発を行い、高齢化についての市民たちの理解を深める。そうした高齢化問題についての教育につけるように考えられる。特に高校生と高齢者との接点を多くするために、ボランティアの形でもよいからさまざまな形で、高校生が高齢者とふれあう機会を、学校としても用意すべきであろう。